



第 25 号
2001 年 03 月

ネパリ・バザーロ だより



ベルダレルネーヨ通信

ネパリ・バザーロは、ネパールを中心としたアジア諸国のハンディクラフト製品や食品の企画、開発を行い、継続的に輸入を続けることによって就業の場の拡大をめざすフェアトレード団体です。立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取組めたらというのが私たちの願いです。母体となるボランティア・グループ(NGO)であるベルダレルネーヨ(ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会)のトレード部門として1992年から活動しています。1998年2月からは、地球市民かながわプラザに直営店「ベルダ」をオープンして第三世界からの品々をご紹介します。

フェアトレード 活動紹介 ニュース・レター



ネパリ・バザーロは、IFATに所属して、国際的な協力を得ながら、フェアトレード運動を通じて社会貢献を目指しています。

IFATは、ILO(国際労働機関)の正式なオブザーバの認定を受けたフェアトレードの国際組織です。



特集

フェアトレードの現場とその思いシリーズ その4 「熱き想いの女性たち」

- 女性とフェアトレード -
2001年春夏秋同時掲載特集

p.2

(ネパール語学留学)タライへの旅、そこから得たもの	木田貴順.....	p.6
新しい動き「身近な国際協力、最近の実感」		p.6
海外の動き 国営ネパールテレビ局取材 / IFOAMの動きから / 読者の声		p.7
学習会 ネパール訪問報告 / 料理教室とマンディラさんの一言	...	p.8
レプチャの民話を絵本に「大空へのみち」	...	p.9
「ネパールを訪ねて」	地球市民交流基金アーシアン 古濱久美子....	p.10
お知らせ・編集後記	p.12

2001年春夏がが 同時掲載特集

熱き想いの女性たち

- 女性とフェアトレード -

編集部

10年近く活動が続けてくると、様々なネットワークができてきます。その感想をひとことというすれば、男性同士の関係は、良い悪いにかかわらず、ある程度駆け引きがあります。そこから、信頼関係へと変化して行きます。女性同士の関係では、特に共感がまず最初にあるようです。情熱と情熱がぶつかり共感を生み、信頼し合うケースが結構ありました。

このような女性達のお陰で、日本からは遠い国で活動する場合にも、いろいろなアドバイスや情報を頂いたり、家族同然に親しい友人として精神的にも助けて頂いたこともありました。

男性と男性の間に彼女達が介在してくれることによって、その信頼関係が深まることもありました。そのお陰で安心して活動に専念できたことがいままでに沢山ありました。

21世紀は女性の時代とも言われますが、本当にそうなることを願っています。しかし実際には、ネパールでも日本でも、そして、村でも、町でも、あるいは都会であっても、私たちが知る多くの女性達たちの生活は不平等との闘いといってさしつかえないように思います。それは残念なことですが、国境を越えて、同じ悩みを持つ女性達は共感し、連帯することができます。

弱者の意見が無視されず、小さな生産者、コミュニティが大切にされ、男性と女性が真に理解しあう世界を築くには、ジェンダーの視点と意識を持ち合わせていなければならないでしょう。その点でも、今、フェアトレードが注目されています。

女性と社会、女性と開発、...、様々な切り口でその問題点と改善のための分析や報告がなされています。



Table of Contents

	Comments on the book	page
	From the author	
Chapter 1	Women and Society	1
Chapter 2	Women and Trafficking	11
Chapter 3	Women and The Environment	25
Chapter 4	Women and Education	37
Chapter 5	Women and AIDS	49
Chapter 6	Women and Agriculture	57
Chapter 7	Women and Health	67
Chapter 8	Women and Media	75
Chapter 9	Women and Development	81
Chapter 10	Women and Children	87
Chapter 11	Women and Population Control	95
Chapter 12	Women and Politics	103
Chapter 13	Women and Law	109
Chapter 14	Women and Organizations	117

この特集をするきっかけとなった本
女性と社会、女性と売春、女性と環境・・・etc.
翻訳本が、花林書房から出版されている



ビルガンジ（ネパール極西部）の女性達と共に

すが、この特集では、フェアトレードで活躍する女性達の情熱と素顔をたとえ一部でもご紹介し、フェアトレードへの理解を高め、女性の地位向上に寄与する姿を感じ取って頂けたらと思います。

ネパールのフェアトレードの現状

ネパールの生産者団体は、他の生産国のそれに比較すると規模は小さいようです。約75年前に、インドのマハトマ・ガンジーの影響を受け、底辺の女性達の支援から始まったマハグティ、比較的貧しい人々が住む地域で、最下層カーストと言われる人々の生活向上を目指した活動から始まったクンベッシュワールテクニカルスクール、小さな規模の生産者は、自ら生産技術向

フェアトレードの歴史

ネパールのフェアトレードの歴史は、女性の自立への戦いの歴史でもあります。

女性、人々の自立には経済的な要因も見逃せないと早くから考えて活動をしてきたのは、マハトマ・ガンジーの影響を受けたマハグティで、76年の長い歴史を持っています（通信23号参照）。フェアトレードの専門部門を開き、本格的に取り組始めたのは1984年です。

1980年代に入ると、女性の仕事作りのためのハンディクラフトを中心とした組織ができ始めます。WSDC(1975年)、BCP(1981年)、ACP(1983年)、KTS(1984年：通信24号参照)、女性起業家協会WEANは1987年、サナハスタカラ(1989年)、JWDC(1989年)、WSDPP(1989年)、MANUSHI

(1991年)、WEANコープ(Co-operative:1991年)等がその頃に設立されています。

フェアトレードのネットワーク組織FTGNを作ったのは1996年、フェアトレードの国際組織IFATへの加盟は1997年です。その頃、WSDC、BCPもIFATへ加盟しました。NWCのように、加盟を誘われながらもまだ未加盟でいる生産者団体もあります。

紅茶の共同組合組織による生産は、1984年から始められていて、フェアトレードのラベル表示運動の国際組織FLOへの加盟は昨年です。

興味深いことは、自立のための経済活動であったということで、フェアトレードを意識されたのは1996年ごろの国際組織加盟のころからで、その頃から盛んにフェアトレードという言葉が使われるようになりました。

上や市場を見つけることが困難で、いつまでもその環境や状況が改善されないため、彼等のために国内での販売や海外市場への販路開拓を担うサナ・ハスタカラ、女性の自立への活動を広く行っているマヌシ、手工芸品の生産者の雇用拡大を目指すACP、女性一人一人の幸せを願い、その自立と連帯を目指して、特に紙製品を通じて遠隔の村への貢献も視野に入れているNWCなど、その形態は様々です。

雇用の機会が少ない社会では、女性の場合、どんなに優秀な人でも余程のコネがなければ就職はかなり難しい状況です。結婚以外に経済的自立の選択の余地はありません。

そのような状況を改善していくためには、女性の社会進出として新しい仕事を創出することも大切で、女性起業家協会WEANは、女性が起業するための幅広い活動を実施しています。そこから起業した人々の共同組合であるWEANコープが生まれています。

それぞれの団体で、設立目的や立場の違いはありますが、人々の仕事作りを通して生活の向上に努め、「援助より貿易を」を実践して来しました。1996年3月、ハンディクラフトを中心に扱っている7団体がFTGNというグループを作り、フェアトレードの国際組織IFATに参加しました。そして、1998年11月2日から5日まで、IFATのアジア地域会議もネパールの首都、カトマンズで開かれました。

他にも、IFATへ単独で参加している紙作りを行う団体BCP、女性の技術訓練と自立支援を行うWSDCもあります。



WEAN コープのマサラ開発メンバー
左端はシタラさん



WEAN コープのお店

IFATには所属していなくても、ネパールで唯一オーガニックの紅茶生産を行い、海外（オーストラリア）の証明を受けているKTE（カンチャンジャンガー紅茶農園）もあります。

小さな生産者、農家が多いネパールでは、フェアトレードの出番は多いし、期待も大きいのです。

情熱をもって取り組む女性達

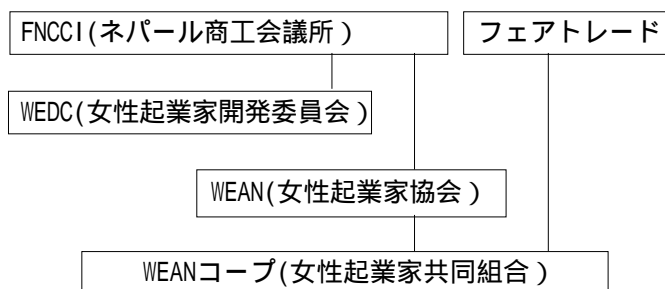
女性のネットワークを目指す

NWCのシャンティ・チャダさん

1950年ネパール生まれ。夫は8年前に亡くなり独身。2人の娘さんがいます。彼女とは、WSDC（女性技術開発センター）の理事長であった1991年以降の付合で、もう、かれこれ10年にもなります。「私たちは乞食ではない。恵んでくれなくていい。援助より貿易をして欲しい」と当時言われた言葉は、今でも鮮明に思い出します。その言葉が私達のフェアトレードを始め



中央の白い服を着た女性がシャンティさん
NWCの入口にて

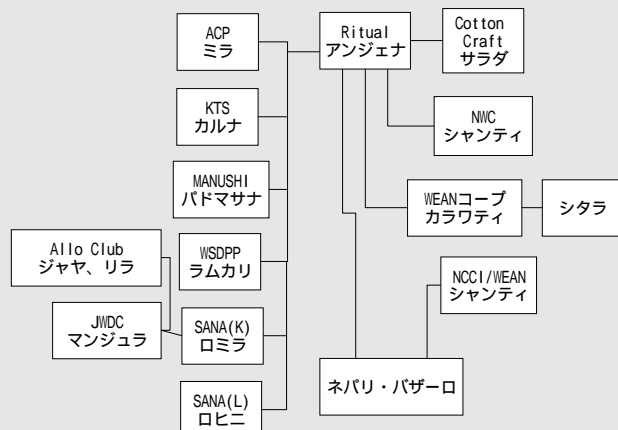


FNCCI、WEANとフェアトレードの関係（直接FNCCI交渉もある）

flfpš • EfofU • [f • , E • - • < , ìflfbfgf • • [fN

ftfFfAfgfE • [fh, ì • cšE, ÅŠ~ô, u, Å, ç, é • - • < , ì'ò • R, ç
 ÅA , ±, ìE, ç, é, ½ • t-E, Å • E, ì • , é, ±, E, ì'ì, u, ç, Å, •
 ÅA "A, EŠÖW, ì • [ç • Y • Ö, E, ìŠÖW, cšE'P, É • } • |, • , é
 ÅE, ì, æ, ç, E, è, Û, • B

fR • [fq • [, E • g'f, ð • ce, - , E • A , » , ì'½, - , ì • - • < 'B, E, ì • Û • G
 , a' • t • S, Å, • B





フェアトレードの現場とその想い シリーズその4

た原点です。女性の社会的地位向上を願う彼女は、パワフルな情熱のかたまり。地道にいっしょうけんめい頑張る人を応援しています。不器用で要領が悪い、そんな人の良い点もしっかり見抜き、応援しています。

イギリス、アメリカ、インド、フィリピンなど各国でマーケティングを学び、自国ネパールで「自らの足で立たなければ明日はない」と精力的にフェアトレードを推進しています。

ラナ家に生れ高い教育を受け、その恵まれた生い立ちを生かしながらも、しわ寄せを受けやすい女性達のために常に思い、1997年には、女性一人一人の幸せを願い、その思いを込めて、ネパール・ウーマン・クラフトを設立しました。彼女のデザイナーとしての能力を活かしてネパールの伝統的な紙の販路を広げ、貧困に苦しむ極西部の生産者に継続的な仕事を提供してきました。

また、各種協会の役員、代表を勤め、女性起業家協会の代表、およびネパール商工会議所の女性起業家開発委員会の局長にも就任。更に、ネパール政府の家内工業省に協力して、村の女性達の研修の積極的な受け入れもしてきました。

シャンティさんは情をととても大切にする人で、私たちが現地で崖っぷちに立たされたとき、その暖かい心で何度も救ってもらいました。そして、様々な形で人生を教えてくれた大切な人でもあります。その大きな愛情をもって、今、女性のネットワークがネパールの各地へ、そして世界各地へと伸びて連帯していこうとしています。

フェアトレードの先人、 ACP代表ミラ・バッタライさん

有能なビジネス・ウーマンのミラさんも独身です。フェアトレードグループFTGNに所属する団体の代表を務める女性達は、なぜか独身です。

英語が堪能で国際感覚あふれる彼女。多くの働いている人々の面倒を見る立場で責任も重く、いっしょうけんめいです。

2年前に、IFATの国際会議がイタリアのミ

ラノで開かれました。カトリック協会の国際会議場を使い、朝から晩まで門の中でした。たまには、外の空気も吸いたいものです。3日目にチャンスがまわって来ました。久々に夜会議がなく、夜6時頃から外に出られます。といっても、まわりは畑ばかりで、その中をスペインから来た人とネパールから出席した人達と探検旅行にでかけました。そう、ミラさんもいっしょです。結局、寄り道しながらやっと何か食べられるスナックに30分後に到着。歩きながらミラさんと多くのお話ができて、なぜ「フェアトレードをしたいのか」、女性とハンディクラフトの結びつきなど、彼女の想いが聞けたのは最大の収穫でした。でも、ネパールのACPでの彼女。やっぱり、力が入っています！

女性起業家、豊富なアイデアを活かして コットン・クラフト サラダさん

女性がいくら優秀でも就職する機会は大変少なく、一般庶民にとっては大きな問題です。サラダさんは、自らも自分の足でたつこと、そして女性の雇用機会をつくることを考えて、WEANの研修を受けた1人です。

彼女は、夫が勤務するJICA(日本国際協力事業団)のカウンターパートの土木関係の仕事で、ネパールの奥地に10年程生活した経験がもとになり、少しでも女性の家庭の中での地位向上ができればと願い現在の仕事を始めました。



カトマंडウで開かれたIFAT地域会議で挨拶を務め、事務局のキャロルさんから労いの言葉を受けるミラ・バッタライさん(中央)

女性ための活動組織

ネパールには、多くの女性のための組織があります。最近設立した組織の名前を極一部紹介します。

- | | |
|---|------|
| 1、Women's Awareness Center Nepal(WACN) | 1991 |
| 2、Nepal Women's Forum(NWF) | 1990 |
| 3、Women's Rehabilitation Center | 1990 |
| 4、Women In Development Nepal(WID) | 1990 |
| 5、Service for Unprivileged Section of Society(SUSS) | 1989 |
| 6、Nepal Centre for Women Child Affairs(NCWCA) | 1989 |
| 7、Creative Development Center(CDC) | 1988 |
| 8、WEAN | 1988 |

ネパール政府の女性政策

ネパール王国政府の第8次計画では、女性開発のための分野別政策を採用しています。そのプログラムには、工業、農業、森林、健康、教育などの経済社会分野での女性進出の改善が盛り込まれています。

その計画書は、特に、融資、技術ノウハウ、起業家の訓練、市場における様々なサービスが強調され、従来の伝統的な分野とそれ以外の分野でも女性が活躍できる場が拡大していくように図られています。

*FNCCIは、1997年に女性起業家ダイレクトリーを出版しています。



研修で来日中のサラダさん
(ネバリ・バザール事務所にて)

縫い物ができる2人を集めて始めた仕事で一番苦労したのが販売市場をみつけること。なかなかマーケットを見つけられないでいるときに、ハンディクラフトの展示会がカトマンズで開かれました。サラダさんの所属するWEANコープも出展していました。

ネバリ・バザール代表の土屋春代も、サナのマネージャーのチャンドラさんに誘われ、その展示会を訪れていました。その時、WEANのコーナーで記念にと買ったのがサラダさんのペンケースでした。

それを見ていたサラダさんが、後日、チャンドラさんに自分の製品を見て欲しいと引き合わせを頼み、私たちとサラダさんとのご縁ができたのです。

家族思いのサラダさん、お付き合いしてみると、周りの方も大切に、健康にも気を遣い、大変優しいその想いが伝わってきます。ネパール各地のこと、テレビで放映される番組のこと、彼女からは、様々のことを学びました。1999年に研修で来日し、自らの目で日本のマーケットを学んだ彼女は、製品開発、品質管理に磨きがかかりこれからも力強い協力者になってくれるでしょう。

不安を抱えながらも起した事業も今では、オーストラリアのフェアトレード団体からの引き合いもでてきました。今、世界に向かって羽ばたこうとしています。

絞り染めと草木染めにこだわり、 女性の自立を考えて マヌシ代表パドマサナさん

FTGNの中で、特に、女性の自立に取り組むのが、マヌシです。その創立者で代表を勤めるパドマサナさんは、1996年にFTGNの副代表を勤めたことがあり、1984年からネパール報道機関の会計、1991年から今日に至るまでトリブバン大学で経済学を教える先生でもあります。

彼女は独身。ともかく元気で、仕事熱心。そして、フレンドリーな女性です。そして今までに、ジェンダーにかかわる多くの調査や活動をしてきました。その経歴は多く書ききれないほどです。その一部を紹介します。

1994年、女性に対する差別除去のための国連会議のワークショップ

1995年、北京世界女性会議、“女性と開発”のワークショップ開催

そのマヌシは、草木染めでも、いち早くその技術を取り込んだ団体です。草木染めのネパールでの歴史は古く、それは、マンダラ等の絵の素材として利用されていました。時を経るに従って化学染料におされ、草木染めが見直されるようになってきたのはここ数年のことです。マヌシもこの草木染めの復活に貢献しました。

草木染めの手順など、絞り染めを含めて、カタログで詳しくご紹介します。

<カタログ2001年春夏号、通信22号参照>

注)

ACP (Association of Craft Producers)

BCP (Baktapur craft Printers)

FLO (Fair Trade Label Organization)

FTGN (Fair Trade Group in Nepal)

IFAT

(International Federation of Alternative Trade)

KTE (Kanchanjanga Tea Estate)

KTS (Kumbeshwar Technical School)

NWC (Nepal Woman Craft)

WEAN (Women Entrepreneurs Association of Nepal)

WEAN Co-operative

WSDC (Women's Skill Development Center)

WSDPP

(Women's Skill Development Project in Pokhara)

まだまだ、ご紹介したい女性がたくさん。サナのロミラさんとロヒニさん、アロークラブのジャヤさん、リラさん、ジャナカプールのマンジュラさん、WSDPPのラムカリさん、WEANコープのカラワティさん、シタラさん・・・、ともかくもネバリ・バザールの仕事は、女性のネットワークに支えられています。



KTSの
カルナさん(左)と
話し合う
代表の土
屋(右)



マヌシのパドマサナさん(左から2番目)と新製品の打合せを行う代表土屋(左端)

1995年2月頃の話になるが、ぼくがカトマンドゥに語学学習のために滞在していたときのこと。旅行会社に勤めている友人のジャーナルダン・ゴータム（通称ジョン）と彼の子ども時代を過ごしたタイ地方の村を訪ねることになった。

（注）タイとはインドとの国境附近の平野部の総称

出発の朝、まだ夜も明けないうちに僕ら2人はリングロードの北の端にあるバスタークでチケットを買った。日本のバス乗り場のように親切に行き先表示がされているわけでもなく、みんなどうやって目的のバスを見つけるのだろうと不思議に思いながら、ジョンとニーローバス（青バス）という国営のバスに乗り込んだ。このバスは日本の援助で導入されたバスで、とてもパワーがあって乗り心地も良く、ネパールの人たちもニーローバスはお気に入りのようだった。

山を越え、谷を渡り、バスはタイを東へとひた走り、ジャナカプルまでたどり着いた。そこから更に数時間バスに揺られ、目的地のハリオンに着いた。大きな国道沿いの町だ。タイ地方は近年になって伐り開かれ、たくさんの開拓者が移り住んできたという。数十年前にはこの地方は森林が鬱蒼と茂るジャングルで野生の象もいたのだという。

ジョンの従兄妹の家を訪ねた。みんな都会から帰省したなつかしい従兄妹に会って、本当にうれしそうにしていた。近くにはジョンのおばさんも住んでいて、会いに来たことをとてもよろこんでいた。皆、本当に気持ちの良い人たちで、僕が外国人であることをまったく気にせず友人として接してくれた。よく聞く話に、仲良くしてくれると思ったらお金目当てだったとか、結婚して日本へ働きに行くのが目的だったとかいうのがあるけれど、そんな気持ちを微塵ももっていない、気持ちのまっさらな人たちだと心から感じられた。夕方、ジョンの従兄妹たち家族とダルバートをいただく。とても質素ではあったが、温かみのある食事だった。食事の後はみんなで尽きることのないおしゃべりの時間。多分、僕が初めて会った日本人なのだろう。



友人の親戚の子どもたち



語学学校の終了式
木田本人
（右端）

日本について熱心に聞いてくる。日本は夢のようなリッチな国で誰も彼も何不自由ない幸福生活を送っていると思っているらしい。僕は日本の現状を思い出ししながら、彼らに、確かにネパールの人たちはモノは持っていないけれど心がとてもリッチだということ、逆に日本人はモノはたくさん持っているけれど心に病をかかえている人が少なくないと思うと話した。実際、この村の人たちの生活はシンプルで質素で日本のような便利な生活ができるはずもないが、心はとても純粋でとりわけ子どもたちの澄んだ瞳が印象的で笑顔は屈託がない。

ネパール人全般にいえることでもあるが、とりわけこの人たちは話好きだ。日本のことをいろいろ話すと、そんなわけはないと笑い飛ばしたり、ぼくがネパールのことを質問すると、冗談めかして皆で笑ったりして僕は今まで味わったことのない楽しい時間を過ごした。ジョンの従兄妹たちはいろんなことに興味があるので質問せめて話がつきない。ついつい夜がふけていくのも忘れて話に夢中になっている。皆の顔を焚き火がやさしく照らしている。皆ほんとうにいい顔をしている。焚き火はとうもろこしの茎を乾かしたものを燃やす。ここでは灯油は貴重品なのでランプは極力使わないようだ。夜も更けて、子どもたちは階上にあがっていった。今度はろうそくの明かりで勉強をしている。しかも1本のろうそくで4人くらいがまあるく囲んでろうそくの明かりを有効に使っている。こんな姿をみると日本で不平不満を言っている自分たちのことが情けなく思えてきた。

この旅で、理屈では説明できないたくさんの宝物を見つけた。その宝物はいつでも僕の思い出の中から取り出すことができ、ときどき掌にとるとあたたかな光を放って自分を照らしてくれる。きっとこれからも。

身近な国際協力 最近の実感

「フェアトレード」の日本における知名度はまだまだです。メディアの方でも大半は知らないという状態といわれます。それでも、少しずつ熱心なお店の方の情熱とともに着実に広がっています。最近では、建築

関係の壁紙に自然素材を利用する動きもでています。学校関係でも、フェアトレードに対する卒業論文、ゼミ、社会科での授業での取組が目立って来ました。

私達も、「教育とフェアトレード」の視点で取り組みをしていきます。お楽しみに。



海外の動き

国営ネパールテレビ局チームによる 日本のフェアトレード取材

昨年（2000年11月26日）日本とネパールの交流を描く日本紹介特別番組の取材として、地球市民かながわプラザと、その中にあるフェアトレードのお店、ベルダの取材が、ネパールの国営テレビ局チームによって行われました。

これは、日本とネパールの交流プログラムの一環として日本が招待したもので、外務省外務大臣官房海外広報課が窓口となって行われました。

そして、その模様は、ネパールで12月23日に放映されました。現地の関係先から、突然、そのインタビューのコメントや感想がEメールで届き、私たちも驚きつつ喜びました。相互信頼の橋渡しにもなっていることを実感したひとときでもあります。

この取材は、日本とネパールの交流を深めるプログラムとしても、また最近現地でも、フェアトレードの活動成果が放映されているので、実際の日本の活動を紹介するという意義もありました。



フェアトレードショップ“ベルダ”で、ディレクターのガンビルさん指揮のもと、熱心に商品を撮るネパールのスタッフ

ネパールのテレビを見た知人の感想

Dさん：

土曜日のネパールテレビで映っているのを見ましたよ。日本とネパールの友好に大変良いですね。

Aさん：

土曜日のテレビを見ました。テレビに映っているの、嬉しくも驚きました。その時、家族の皆に話したんですよ。日本で私達ネパールの商品を紹介してくれて嬉しいです。

Ščšŏ, Ĩ“®, « ‡ U



INTERNATIONAL FEDERATION OF ORGANIC AGRICULTURE MOVEMENTS

&



貧困をなくし、一人一人が尊重される豊かな社会を造るには、小さな生産者、農民たちの生活が向上することが大切です。その実現には利益追求のみを目的としないフェアトレードが大変重要だという理解が年々深まっています。

私たちが所属するフェアトレードの生産者とバイヤーの世界的な組織（IFAT）では、早くからその視点にたって活動してきました。

最近、ドイツの建築分野でも、そのデザインの過程において、環境とフェアトレードを考慮して仕事が進められていると関係者から聞いています。例えば、アレルギーを持つ人に自然素材を使った建築素材を提供する際に、ネパールのロクタペーパー（自然のものだけで作られた伝統的な手漉き紙）を壁紙として使い、柿渋を塗る、という具合です。日本でもごく一部

ですが、そのような動きがでてきています。

オーガニック証明機関の国際的頂点にたつIFOAMでも、この動きは顕著です。例えば、昨年の3月に開かれた科学会議では、小さな生産者の証明取得に焦点があたりました。

その会議で、IFATからフェアトレードの活動が紹介されました。IFOAMとIFAT、FLOの交流を通じて、フェアトレードへの認識は更に高まりつつあります。

ネパールでは、世界最高峰のエベレストの麓に近いカンチャンジャンガ紅茶農園（KTE）がFLOの生産者リストに登録され、IFOAM傘下のオーストラリアの有機栽培証明機関NASSAが毎年現地を訪れ、そのオーガニック水準の維持に寄与しています。

読者の声

フェアトレードの心暖まる素晴らしい商品（作品）が大好きです！少しですが（たくさんは買えないけど）今年も買います！お手伝いしたいけど遠い（泣）。真心込もったネパリが超好き！（Yさん）

地味で一步一步のご努力、頭が下がります。何かお役に立ちたいと常々考えて居りますが、体がついて行きません。仲間を増やして春には先ずお店を訪ねることから始めます。（Sさん）



学習会(11月)紹介 ネパール訪問報告 ～ ボランティアの見たネパール～

昨年の8月、ネパリ・バザールのボランティア5名が土屋春代代表と共に、ネパールのフェアトレードの生産者や、支援している子どもたちのホームを訪問しました。11月12日の学習会でその様子が、ビデオを使って報告されました。

報告...

5名の内、3名にとっては初めてのネパール。最初に目にしたのは、舗装されていない道路、そこを歩く牛と路上で遊ぶ子供たち。ギューギュー詰めの公立学校と、そこにも通えない子どもたちでした。

生産者訪問では、保育室付きで女性に技術指導をするといった自立のための具体的な支援が行われているところに感心し、また、先輩の女性が後輩に起業する力をつける連携のあることも知りました。女性起業家のひとり、ウーマンクラフトのシャンティさんの「アメリカであれ、イギリスであれ、日本、ネパールであれ、女性のかかえる問題は同じです。だから、仕事を通じて連帯しましょう。」という言葉どおり、女性の力を感じた訪問でもありました。

卒論のための参考にと参加された学生の方もいて、報告の後、主に小さな生産者とのつながりについて、質問の手が次々と上がり、土屋代表が答えました。

土屋代表の話...

ネパールのフェアトレードの生産者は、インドなどに比べ規模が小さい。ファックスもカタログもない生産者には、現地で直接話し合っておオーダーします。協力し合い、日本人のニーズに合うものを作っています。



ビデオを見ながらの報告

す。私達のオーダーによって力をつけ、市場を拡大していくことを願っています。

今回のボランティアとの訪問は、同じ体験を共有することによって、私たちの今後の活動にプラスになることと思います。

参加者のアンケートより...

...今日初めて参加させていただきました。アジアの雑貨が好きでインターネットでフェアトレードを調べていくうちにネパリ・バザールと出会いました。今日はいろんな勉強ができました。

...一番印象的だったのは、女性の問題は先進国でも共通な部分があるというコメントで、これは漠然と感じていたことだったので、とても納得しました。とは言え、途上国の状況は私の想像をこえるほどのもので、一方的ではなく、先進国のもっているものを共有していくことができればと思います。

紅葉も始まり、寒くなり始めたころの学習会でしたが、20名余りの参加者による話し合いは熱のこもったものとなりました。

ネパール料理教室

12月17日に、ネパリ・バザール恒例の、ネパール料理教室が地球市民かながわプラザで開かれました。

講師は、ベルダのお店のマンディラ・シュレスタさん。去年から販売が始まったネパリ・バザールのマサラに、マンディラさん流のアレンジを加え、カレー2品を中心にした一揃いをご紹介します。

<今回のメニュー>

- * チキン・カレー・・・定番のスパイシーなカレー
- * 冬野菜のカレー・・・今回はカリフラワーを使用
- * アルウォー・・・ジャガイモのお好み焼き風
- * 大根のアチャール・・・カレーに添える即席漬け
- * フルーツヨーグルト
- ・・・カルダモンの香りの簡単デザート

マンディラさん流 野菜カレーの作り方

フライパンに大さじ2の油を入れ、ジャガイモ2個、ニンジン1本の乱切りを炒めます。塩小さじ2を加え、さらに混ぜ合わせたマサラ(チリ・パンチを除く)半量を加えます。深鍋に移し、水200ccを加えて中火で煮ます。

油大さじ1でざく切りの玉ねぎ1個を塩小さじ1で炒め、完熟トマト2個をざく切りにして加え、残りのマサラを入れ、に加えます。

50ccの水でフライパンをすすいで深鍋に加え、小房に分けたカリフラワー200gを鍋の中央に入れます。

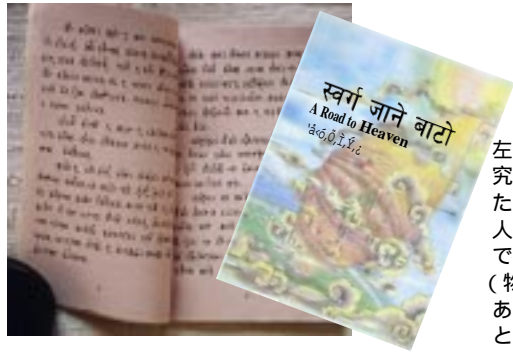
蓋をして強火、沸騰したら蓋を取り中火で10分煮てから、好みの量のチリで辛味を調整します。

油大さじ1でパンチフルナを炒め、斜め切りにしたチンゲン菜の葉4枚分も炒め、できあがったカレーに加え彩りにします。



レプチャに伝わる民話が絵本になりました！ 「大空へのみち」

東ネパールに暮らす民族、レプチャに伝わる
味わい深い民話が、絵本になりました。
3ヶ国語で書かれています！



左はレプチャ研究のため入手したレプチャの人々が使う文字で書かれた本（物語とは関係ありません）と、右は絵本の表紙

絵本とフェアトレードの出会い

今までになかったことを始める時、それは、時として偶然のいたずらが働きます。この絵本作りの出会いもそうでした。

物作りをしている女性達の多くは英語ができないし、生産者と深い話をするにもどちらかが母語でないと難しいものがあります。現地です屋春代がネパール語を学ぶ時にお会いしたのが、この絵本作りのパートナーになったサパナさんという女性だったのです。

サパナさんから絵本作りへ

ネパールで出会ったサパナさんは、教育を専門とし、大学の卒業論文として、レプチャの子どもたちの就学状況を調査し、未就学や中途退学の要因を調べました。それは、他の民族も含めて、就学率の低い子ども達への教育レベルを向上させたいという思いを込めた研究でした。彼女は研究に協力してくれたレプチャの人々に

マンディラさんからひとこと

ベルダのスタッフとしてもう3年になります。ようやく、お客様に名前を覚えて頂き、商品の説明なども少しは上手になったかな？と、思います。

あるとき、ベルダのお店に来るお客様から、チキンカレーのスパイスとベジタブルカレーのスパイスでは、何が違うのですか？と、不思議そうに私に聞いて来ました。最近、このような質問が毎日あります。

チキンカレーは、肉にあったスパイスを使用し、肉とスパイスが混ざり、肉からでてくる栄養分がカレー全体に広がって、美味しさが増します。

ベジタブルカレーは、野菜にあったスパイスを使用していますので、スパイスが野菜と混ざり、野菜から出てくる甘みのある栄養分がカレー全体に広がり、美味しいベジタブルカレーが味わえるのです。この2つのカレーは、ネパールの女性たちが、長年の経験でスパイスを調合し、食べやすい味にしています。

むかしむかしのこと。東ネパールのイラムにレプチャという人びとが・・・そしてながいあいだ考えたすえに「大空へのみち」をつくることを思いつきました。

民話収集：サパナ
挿絵：スニタ・ラナ
使用言語：ネパール語、英語、日本語
翻訳：ネパリ・バザーロ、ベルダレルネーヨ
発行：ネパリ・バザーロ
価格：500円＋消費税

対し、一時の研究だけに終わらせず、実際に子どもたちの就学率を上げ、彼らの生活が向上するような行動につなげたいと願っていました。

彼女の論文にも書かれていること、それは、子ども達の就学率の低さも経済的要因と密接な関係を持っていることでした。教育を専門とする当時の彼女には何もすることができず、彼女にできることは、そのことを人に伝えることでした。

何もできないでいる彼女と言葉を勉強しようとする私たちを神様が引き合わせてくれたのでしょうか。自己紹介をする中、お互いの必要性を感じ、この活動が始まりました。

先祖代々語り継がれてきたお話を本に残しながら、合わせて、その地域のことをもっと深く知ろう。その中からフェアトレードへの道を検討することにしました。その第1歩がレプチャに代々伝わる味わい深い民話を絵本にし、広くネパールの人たちに読んでもらうこと。そして、レプチャの子ども達に自分の民族への誇りを持ってもらうことでした。

レプチャとは？

レプチャは、ネパール東部、インド北東部のシッキムやダージリン、ブータン西部に暮らす少数民族です。多様な民族が暮らすネパールで、わずか4,000人のレプチャ民族は少数民族として厳しい暮らしを強いられていますが、独自の宗教、言語、文字をもち、豊かな文化を受け継ぐ民族です。

カレースパイスは、約30種類以上あり、一つ一つが漢方薬でもあります。体に良く、一つのスパイスには体を整える働きがあり、長い間、インド、ネパールや中国などでは、漢方薬として体の健康を維持して来ました。沢山の種類のスパイスを粉末にして、自分の体に合うように調合し、食べ物に入れたり、香りを付けたり、薬として服用しています。まさしく、自然の調味料です。皆さんも、スパイスについて、もう一度、考えを新たにしたい、ネパールのカレーを作ってみては如何でしょうか？



にぎやかな雰囲気につつまれた料理教室中央がマンディラさん

その後ろでひたすら料理を食べるボランティアの男性群



ネパールを訪ねて

- 地球市民交流基金アーシアン -

古濱久美子

昨年に続き、実際に現地を見て、生産者の様子、その熱心な取組みを消費者にお伝えしたいとお話がアーシアンさんからあり、この企画が実現しました。今回はアーシアンさんの強いご希望で、生産者だけでなく、私たちが長年支援を続けているホームの子ども達にも会って頂きました。

現地滞在中は、生産者の方々にはお忙しい中大変お世話になりました。ホームステイをさせて頂いたり、市内の観光案内までして頂きました。しかし楽しいことばかりではなく、ホテルストや、学校閉鎖など、思いもよぬハプニングがあり、現地の状況の厳しさも実感されたようです。

出口の見えない貧困に苛立ち、暴力で現状を変えようとする勢力の拡大でどんどん状況が悪化してくる中、現地の皆さんの温かい気遣いに支えられ、無事この旅を終えることができましたことを心より感謝いたします。そのお気持ちにはフェアトレードの実践で今後お返ししなければと気を引き締めつつ。

以下、ツアーに初めて参加された古濱さんから、その訪問した感想を頂きました。（編集部）

初めてのネパール、飛行場を降り立っての驚き？

12月7日の早朝、私たち6人は、タイから初冬のネパールへと向かって飛びたった。

今回のネパールツアーの目的はフェアトレードの製品がどのように生産されているのかをより深く知るためにその生産現場を訪問することと、ネパールの児童施設を訪問してその状況を自分達の手で見て支援の方向を探ることであった。

無事カトマンズの空港に着いたのは、12月7日の午後。空港の建物を出ると、ツアーのコーディネーターをお願いしたネバリ・バザー口の土屋さんとネパールの現地事務所のラビンさんが待っていた。大勢の人々の喧騒に唖然として目を奪われているとたちまち荷物を持たせられと子どもたちに取り囲まれ、あるいはバックに、スーツケースに手をかけられ、子ども達のにこやかに負けそうになる。聞いてはいたが初めての経験にどう対処すべきかとまどってしまう。流暢な日本語で車の窓まで開けお土産品を売ろうとするしたたかな少年。不思議と女の子は見かけなかったが。生きるとはこういう事なのかと考えさせられた一時だったが、私の想像に反して悲壮感が漂っていないのは、国民性なのだろうか。

自動車、リキシャ、自転車、人で混雑する排気ガスの蔓延する道路を走り、ホテル・マーシャンディに到着。初めてネパールに来た印象のためか、だれでも感じるものなのか、飛行場からホテルまでに垣間見た



サバナさん（右端）を囲んでアーシアンさんの6名。
古濱さんは、左端から5番目。

風景は、何か質素で、建物や道路が雑居している迷路のような印象を受けた。

いよいよ最初の訪問先、チルドレンズホームへ

ビシュヌさんご夫妻が運営し、ネバリ・バザー口が支援しているホームに到着。可愛い、人懐っこい3歳ぐらいの女の子（実際は5歳でこのホームに来てから立つ事ができるようになり、歌ったり、少し話す事ができるようになった）と御夫妻が迎えてくれる。熱い甘いチャイを御馳走になりホッとする。

51人の大所帯を御夫妻が切り盛りしているのであるが、ここかしこに御夫妻の愛の深さを感じられる。清潔な衣服を着た、礼儀正しい子どもたちがはにかみながらナマステと挨拶してくれる。ビシュヌさんからお話を伺っているうちに子ども達は自習時間となった。明るいと決して言えない自習室で静かに学習している。学年の上の子の間に挟まって低学年の子が教わる姿に、日本ではすでにすたれてしまった古きよき習慣が生きていることに、ほのぼのとした暖かい気持ちになった。大人数ではあるが、喧嘩や争いはほとんど無いとのこと。これは敬虔なクリスチャンであるビシュヌさんご夫妻のなせる技なのかもしれない。わがままいっぱい我が子や物に囲まれ贅沢に慣れ、それでも留まる所を知らないと思われる一部の日本の子どもたちのこととつい比べてしまう。心の豊かさは決して物に囲まれる事だけではないと改めて感じた。

ここは、18歳になり、10年生を修了するとホームを出ることを求められる。非常に厳しい就職難の社会の中で、後ろ楯の無い子ども達が無事仕事を見つけていっている。そのことを眼を細めてにこやかに話すビシュヌさん御夫妻を見ていて、ほほ笑ましく思った。そのすばらしい子どもたちへの愛情と日々の世話のご苦労が報われるのは、子ども達が自立する時なのだろう。これから続々と18才になる子どもたちが続く。彼らも先輩に続いて自立できる事を願わずにはいられなかった。

サヌバイさんのフォーク

太陽、魚などが柄についたシルバーメタルのフォーク、バターナイフ、スプーンのサヌバイさん。4畳ぐらいの工房を見せて頂いた。

息子さんとご自身と他の2人の職人さんで金属のアクセサリー、勲章などを普段は製作している。さほど注文が無いので、ネパールの注文が主になるそう。

仕事というのに、私たちのためにわざわざフォークの作り方を実演してくれた(大感謝!)。製作手順は意外とシンプルではあるが、研磨だけでも6種類の磨き器材を替えて、丁寧に製造されていく過程が良くわかり、サヌバイさんの仕事ぶりが理解できた。

<詳細は、通信23号「生産者を訪ねて」参照>

ネパールで最も古いNGO、マハグティ

以前、マハグティの年次報告を翻訳した事があり、実際どういう所であるのか興味を持てた訪問だった。

ゆったりした敷地の中に、古い年代物の建物があり、その中に事務所がある。他にダッカ織り、糸紡ぎ、ブロックプリント、ミシンでの縫製をする所等があった。

フェアトレード商品を作っている所は、種々の労働条件が整っており、ネパールのモデルケースになるような所であるだろうと勝手に思い込んでいた。しかし、外の軒下でのダッカ織りの作業所。寒い時もあるだろう。広いが、ときには埃が舞う中で土間に座っての織物や糸紡ぎもしていた。

(注) 建物が古く、電気も白熱電球で暗く、昼間は、このように外の明るいところで仕事をしています。ネパールでの一般的な情景です。(編集部)

感心したのは、託児所もあり、年間の有給の休日は日本よりもはるかに多く、女性が安心して働ける所であり、この点では、ネパールでも画期的な事業を行っている所と感じた。

伝統的な行事やお祭り時は休みになり、生産も落ちるので、注文する側がその時期には注文を控えるとの土屋さんのお話があった。労働条件は守られているが、注文する側の苦労は大変と感じた。フェアトレードでなければこのようにはできないだろう。

サラダさんのコットンクラフト

サラダさんの魔法のバッグで知られている作業所を見学。黙々と機種の違うミシンでの縫製や夏物のアローの布を使った帽子の裁断。錆びた切れあじの悪いはさみが気にも掛かった。刃を研いでくれる職

人はいないのだろうか。効率に影響が出ないだろうか。日本と違い、そのような環境で作業しながらも、期待する品質に応えようとするその姿勢に感動した。

次の夏物のアローの帽子はどんなデザインで出してくれるのだろうか、野次馬根性も刺激される。そして、彼女たちの努力を考えると、それも売れるといいなと願わずにはいられなかった。色、サイズ、型など、消費者のニーズを先取りしていく大変さに、ただただ圧倒された訪問になった。

<女性の雇用機会のほとんどないネパールで、最も期待されているのは女性起業家。数人で始めたサラダさんのご苦勞と、現状、将来の夢については、近々、「生産者を訪ねて」シリーズでご紹介します。(編集部)>

勢いのある女性、サバナさん

ネパールで、こんなにも元気があり勢いに乗っている女性に会えたのは幸運だった。勿論、土屋さんの引き合わせがあったからである。

子ども達に良い本を沢山読ませたいという熱意で、日本の援助による図書館の建設の取りまとめ役も果たしている。1人の力でここまでがんばっている事に感服した。

私達アーシアンは、手の届く範囲で、双方の関係を大事にし、関係の見える支援を望んでいる。特にアジアの女性の自立と子どもの権利が尊重されるように手助けしたいと考えている。

今回、サバナさんに会う事ができ、貴重なご意見を聞く事ができ、収穫であった。

日本で椅子に座って誰か現地の人を仲介した支援を望んではないが、調査のためだけでも何箇所も現地に派遣できる経済力も無い私たち(アーシアン)にとって、「何ができるのだろうか」を考える旅にもなった。今後も良い出会いを求めながら、その課題に向けて精一杯取り組んでいきたい。

カトマンズに別れを告げて

日本では決して経験することができない貴重な経験を沢山した。

成田についた時には、疲れと安堵の気持ちで一杯だったが日が経つにつれ何か引き付けるものがある国であると思い始めたから不思議である。機会があればまた行きたい。ダンニャバード。



サヌ・バイさん(右から2番目とともに。古濱さんは、左から2番目)

ベルダでは、国際協力やフェアトレードについて共に考えていくために、また、協力の対象となっている国々の文化的すばらしさをご紹介するために、様々なイベントを行なっています。

学習会「パドマサナさんを囲んで」

3月11日(日) 14:00-16:00

場所: あ～すぶらざ

ネパールで絞り染のプロジェクト「マヌシ」をマネジメントするパドマサナさんをお招きして、マヌシの活動や彼女の熱い想いをお聞きします。フェアトレードのこと、女性の生き方について、参加者とじっくり意見を交換しましょう。

今回の「料理教室」は

4月15日です。

場所: あ～すぶらざ
大好評のネパール料理教室です。



至大船

至横浜

本郷台駅

地球市民かながわ
プラザ2F
フェアトレードの
お店 ベルダ

TEL: 045-890-1447

FAX: 045-890-1448

あ～すぶらざ
(愛称)



ベルダは楽しいイベントが満載です!!

「フェアトレード学習会 / ミーティングのご案内」

「ベルダ」では、楽しい勉強会を連続で行ない気軽に参加出来るものを予定しています。みなさまの参加をお待ちしています!

2㊦・25日 学習会「絵本作りとフェアトレードについて」(済)

3㊦・11日 公開学習会「パドマサナさんを囲んで」

4㊦・15日 料理教室

5㊦・20日 学習会「フェアトレードのお店訪問」

6月24-25日 みちのくを訪ねて(企画中)

7月15日 料理教室予定(企画中)

9月30日「教育とフェアトレード」(企画中)

国際理解にお役立て下さい。通信販売カタログ

ネバリ・バザーロでは、ニュースレターの発行、フェアトレード関連の本の出版、市民の方々の国際交流、支援の理解を深める活動も行っています。また、フェアトレードの活動に広くご協力頂けるように、通信販売カタログを作成していますので、ご興味がある方はご請求下さい。また、確実に資料が届き、内部勉強会の活動を知りたい方は、購読会員(切手相当の費用として、1,050円)の制度もあります。学校、教育機関へのフェアトレード商品の貸し出し、講演会、お話し会など、開発教育のご協力も実施しています。お問合せ下さい。



ボランティア募集!

イベントのボランティアをはじめ、地域研究と絵本を作る分科会、織と染めの分科会、インターネット分科会など、様々なボランティアを募集しています。お気軽にお問い合わせください。

ネバリ・バザーロのホームページ・・・

グループの設立からフェアトレードに関する情報紹介など分かり易く読めます。

ご覧になってご意見をメールでどうぞ!

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

< 編集後記 >



私達がネパールを訪問して、沢山のことを見て、聞いて、感じたことが大きな力になるのと同じに、ネパールから日本に連れて来られた経験され得たものが、将来大きな力となって役立つことを願って、今年もFTのリーダーをお招きします。お互いに学び合うチャンスが持てるのはうれしいですね。(昌治)



この冬は、雪がよく降ったので、寒いわりにインフルエンザが流行らないと聞きましたが、私は何度も風邪をひいてしまって・・・今年は体を鍛えます。(万知子)



最近、学習会が賑やかです。毎回企画運営の担当者を決めているのですが、「3月の会はこうしよう」「5月はどういうふうにするの?」と、まとめ役の私は皆にベチベチと急ぎ立てられて喜んで(?)おります。(早苗)



この冬は、カタログ発行と通信も重なり、ここ事務所は、まるで我が家みたい。炊飯器を持ってこいとか、ビニルシートは布団になりそうとか。お昼に参加したり、遠くから激励に顔を出していただいたりで、大感謝。

お昼の食べながらの話題: 女性の自立とは? エコナプキンと環境、助産士の是非など。疲れたら動物占い性格診断。フェアトレードの奥深さを実感しています。(完二)

発行: ネバリ・バザーロ/ベルダレルネーヨ

247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町274-15

第2中山ビル3階

Tel: 045(891)9939 Fax: 045(893)8254

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

E-mail: nbazaro@a2.rimnet.ne.jp

印刷製本: 社会福祉法人光友会神奈川ワークショップ

2001年03月発行

発行責任者: 土屋完二

編集スタッフ: 太田昌治 魚谷早苗

土屋完二 矢島万知子

高橋純子

編集協力者: 他スタッフ一同